

### おはなし会【ケムケム】

「ケムケムという名前は、下村湖人の煙仲間運動から頂きました」と代表の佐藤悦子さん。煙仲間運動とは縁の下の力持ちが増えれば地域も良くなるという運動。その名の通りケムケムもボランティアで構成され、千代田町の3小学校で週に1度、授業が始まる前の15分を利用して読み聞かせをしています。

活動を始めたのは、平成6年。佐藤さんただ1人のスタートでした。「社会体育は盛んでしたが、文化面でサポートする所が少なく、子どもたちのために何が



読み聞かせをする佐藤さん

千代田東部小学校で創作劇を演じたメンバー



### 次世代に活動つなげたい

事情から会場を福祉センターや湖人生家へと変更。聞きに来る子ども数が増減するのが悩みで、「時には子ども1人1人が数人という日もありました」と苦労話を明かされました。

発足から4年、「来るのを待つのではなく、こちらから出向こう」と佐藤さんは、自分の子が通っていた千代田西部小学校に申し入れ、昼休みに図書館で読み聞かせを行うことになりました。

最初は、月に1度小学校の図書館を借り、本の読み聞かせを開始。活動は、口コミで広がり、共感して加わるメンバーも増えていきまして、いろいろな

きるかを考えたら、私にもできるのは読書ぐらい。できることから始めてみました」と、当手を振り返り、話してくれました。

最初は戸惑い気味だった学校側の協力も得られるようになり、場所を図書館から教室へ、時間帯も朝へと変更。週に1度全クラスで読み聞かせを行う現在の形ができて上がりました。

活動は、煙が広がるように、千代田東部、千代田東部の2小学校にも広がりました。保護者の参加も増え、現在では協力者も含めると約50人になっていきます。それぞれの学校単位で自律的な活動態勢ができていき、内容は読み聞かせに限らず、素話、紙芝居、エプロンシアターなどさまざまです。

学校の読書まつりでは、地元を題材に1年かけて制作した創作劇なども披露。衣装はほとんど手作り、三味線や和太鼓など会員の特技や趣味も生かされています。また、対象も児童だけでなく幼児や高齢者にも広がっています。

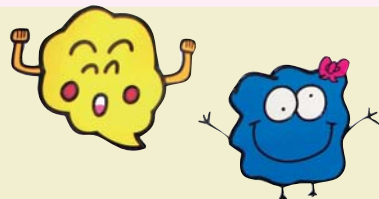
「やれる人がやれる時にやるがモットーです。毎回子ども笑顔、エネルギーをもらい、私たち自身も成長しています」と佐藤さん。会員の皆さんもつなげられています。

「目標はこの活動がずっと続いていくこと。私は父から色々な話を、父も祖父から話を聞いて育ちました。親から子、子から孫へと話が伝わる世の中になればいいですね」と話されていました。

一人ひとりが生き生きと暮らす元気な神埼を、市民の立場で、住みよしのまちづくりに取り組んでいる団体をシリーズで紹介しています。

千代田町の3小学校それぞれで毎週1回読み聞かせを実施。ほかにも子育て支援センター「ひだまりの会」や市立図書館千代田分館で毎月1回の読み聞かせ、老人施設慰問、地元の寺での読書会など多彩な活動を行っている。

おはなし会「ケムケム」 代表 佐藤悦子 TEL0952-44-2925



子どもたちがデザインしたケムケムのマスコットキャラクター